

北海道算数数学教育会小学校部会会報

第 93 号

さんすう

H21・9・10

北海道算数数学教育会
小学校部会発行

豊かな心を育てる 算数教育の具現化に向けて

北海道算数数学教育会

小学校部会部会長

札幌市立山鼻小学校長

松村 憲治

第64回北海道算数数学教育研究大会が、10月8日(木)・9日(金)の両日、岩見沢市を会場に開催されます。大会を1か月後に控え、授業構築では、授業者と本会研究部員による授業検討会を開催したり、大会運営にかかる準備のため空知・岩見沢大会実行委員会の方々との十分な打ち合わせを行ったりするなど、大会開催に向け最終調整に入りました。

ブロック制による研究大会開催は、今年で4回目となります。今回の大会は、長い北数教の歴史の中で初めて空知地区で開催される大会であり、大変意義深い大会です。空知支部では、当時、岩見沢市立メープル小学校長であった中島利明先生を中心に、北数教大会の準備と、空知地区算数数学教育の活性化のため、平成18年早々と準備委員会を設立され、度重なる研修会を重ねるとともに、今回の授業校である岩見沢市立東小学校が決定され、今大会に至っています。空知地区の算数教育関係者の熱い思いと周到な準備によって本大会が開催されることに心より感謝申し上げます。この大会が空知地区算数教育の発展に大きく寄与できること、そして、その成果が広く全道へと広がっていくことを望みます。

算数教育研究の活性化

情報機器の急速な進歩により、いつでもどこでも教育研究にかかる様々な情報を得られる時代となりましたが、個々の研究を充実させるためには、全道規模の共同研究という共通のフィルターを通すことが大切です。共同研究により、矛盾や不備な部分が見えてきたり、新たな視点を生むきっかけができたり、さらなる追求が生まれると考えます。北数教の研究主題は、算数教育の今日的課題や全道の算数教育の動向を考慮して設定しています。今回の研究は、新教育課程実施に向けての移行期間2年間を区切りとしたものです。算数的活動を見直すことで、子どもたちに豊かな思考力や表現力を育てる問題解決学習を追求するものです。全道各地の研究をもち寄り、交流し、より高い質の授業を構築できる場として、北数教研究が進められれば、個々人や地区における算数教育研究のさらなる発展につながると確信しています。

算数的活動について考える

算数的活動について、現行の学習指導要領と新教育課程を比較してみます。現行では「活動の意味を広くとらえれば、思考活動などの内的な活動を主とするものも含まれる」とあります。今回の改訂では、「算数的活動には様々な活動が含まれ得るものであり、…具体物を用いたりする活動を主とするものがあげられることが多いが、そうした活動に限られるものではない。算数に関する課題について考えたりする活動や、考えたことを表現したり、説明したりする活動も、具体物などを用いた活動でないとしても算数的活動に含まれる」となりました。

現行では、広く考えれば、内的な活動も含むとしています。実際の進捗状況はというと、教育課程実施状況調査の結果から、多くは外的な活動に偏っている傾向が見られ、良好とは言えないという結果がでています。それに対し、今回の改訂では、内的な活動をはっきりと位置づけることで、算数的活動の充実を謳っています。更には、自分が思考してきた過程や方法を論理的に説明する言語活動が算数的活動に含まれています。改善の基本方針には「算数的活動を生かした指導をいっそう充実し、また、言語活動や体験活動を重視した指導が行われるようにするために…算数的活動を具体的に示すようにする…」とあります。つまり、算数的活動をどのように取り込めばよいのかではなく、どのような算数的活動をどのような場面で展開するのかという質を大事にしなければなりません。そして、算数的活動の内面化をいかに図るかということについて追求していくことは、問題解決学習を進める上で大きな課題であると考えます。

期待すること

本会は、地区研究と本部研究の橋渡し役として、各地区に地区委員を委嘱しています。組織拡大は、本会ばかりではなく北海道における算数教育研究の拡充につながると考えます。移行期であるこの2年間を最高の機会ととらえ、地区と本部、地区と地区との交流機会を積極的に設けることで、北数教のさらなる発展を期すとともに、空知・岩見沢大会では、充実した話し合いができることを期待しています。



小学校部会 研究部

【研究主題】

豊かな心を育てる算数教育

【研究副主題】

思考力・表現力を育む問題解決学習
～算数的活動を今一度見直して～

I. 研究主題に込めたもの

新学習指導要領への移行措置期間である平成21・22年度の2年次研究に取り組みます。研究主題「豊かな心を育てる算数教育」は根源的な課題として継続し、数理を追求する活動を通して、次のような「豊かな心」を培おうと考えています。

- ① 活動の楽しさや数理や図形のしくみの規則性や論理性、明確さなどを美しいと素直に感じる心
- ② 見通しをもち、筋道立てて考え、処理していく過程で、「簡潔、明瞭」、「統合、発展」を求め続ける心
- ③ 子ども自身が自らの力で学んだことを生かし、仲間と積極的に交流しながら、認め合ったり、高めあったりする心

そして、算数教育を通して、どんな豊かさ（生きる力）を培うのかをさらに大きな視野で見つめ、次のようにおさえました。

- 算数を学ぶ楽しさやよさを感じる
⇒考える習慣を身につけること
- 新しいことを発見したり創ったりする
⇒未知な対象への追究の仕方を身につけること
- 自ら考え、仲間と共に解決していく
⇒明確な根拠をもちながら、情報を伝達し合うこと

II. 副主題設定の理由

1. 研究副主題設定にあたって

前年度までの研究の成果と問題解決の現状や問題点を整理し、今後の研究に以下のことを大切にしていこうと考えました。

- ・新学習指導要領の内容を北数教の研究に確実に取り入れること。
- ・「問題解決学習」についてのとらえをしっかりとすること。
- ・算数的活動と問題解決学習の関連を明確にすること。

今回の学習指導要領の改訂では、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることと、数学的な思考力・表現力を育てることに重点がおかれしました。研究部では、これまでも大切にしてきた「基礎・基本の習得」と合わせて「思考力・表現力の育成」に焦点を当てて研究を進めていきます。また、思考力・表現力を育むための「算数的活動」を今一度見直していきたいと考えます。子どもが思考し、表現していく算数的活動を問題解決学習に確実に位置付けることで、基礎・基本の定着が図られ、算数を学ぶ意欲が高まることを願って、副主題を設定しました。

2. 研究副主題に込めたもの

- ① 思考力・表現力
 - ・数学的な思考力を「筋道を立てて考える力」ととらえ、考えることと表現することの両面から子どもの数学的な思考力を高めていく。
- ② 算数的活動
 - ・授業改善の視点として、現在行われている活動の在り方を今一度見直すとともに、子どもが目的意識をもって主体的に取り組む活動について考える。
- ③ 問題解決学習
 - ・子どもの意欲を生み出す算数的活動を通して、子どもが自ら考え、表現することによって学習の目標に迫っていく学習と考える。

3. 思考力・表現力

今回の学習指導要領の改訂では、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることと、数学的な思考力・表現力を育てることに重点がおかれしました。数学的な思考力・判断力は、子どもが合理的・論理的に考えを進め、お互いの知的なコミュニケーションを図るために欠くことのできない力であると述べています。

数学的な思考力とは、問題を解決するため、これまで経験してきたことや学習してきた何が使えるのか、どのように活かせばよいかを判断したり、どんな見方をすると解決できそうかを試したりして、筋道立てて考えていく力です。

数学的な表現力とは、問題を解決するために「言葉・数・式・図・表・グラフ」などを手段として用い、表現

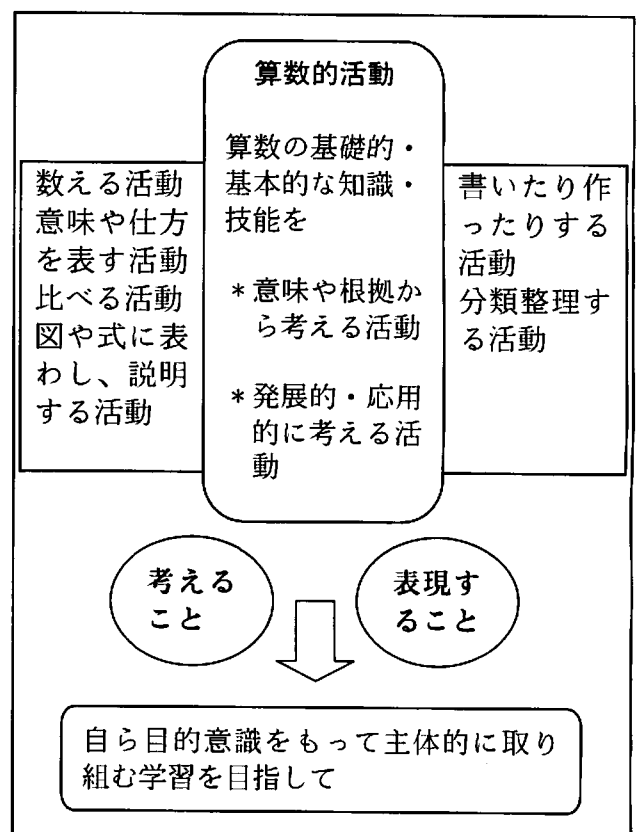
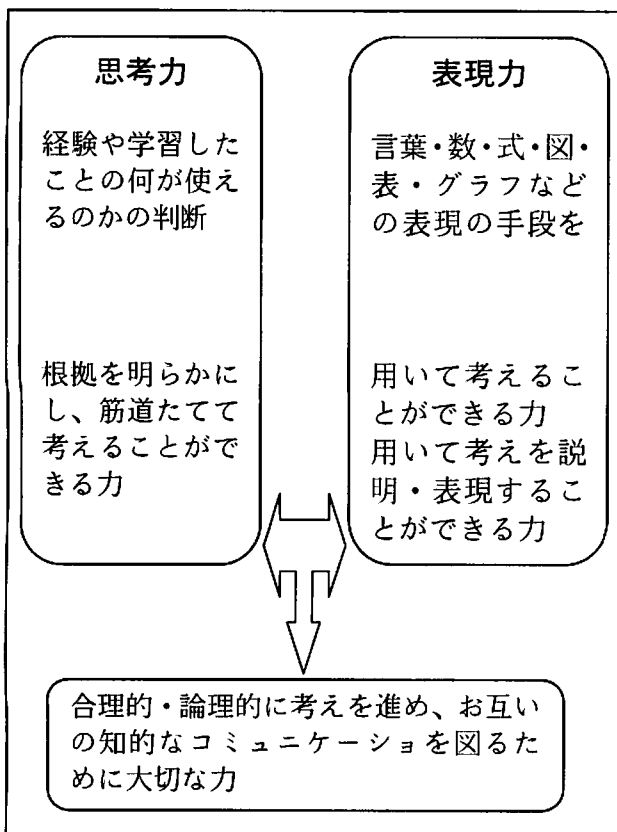
しながら自分の考えを組み立てていく力と、他者と共に問題を考える時に、相手に考えを伝えるために上記の手段を活用して、根拠を明確にしながら筋道立てて説明する力です。

「考えるために表現し、表現することを通してより考えが深まる」という、考えることと、表現することの相乗効果によって、子どもたちの筋道立てて考える力がよりいっそう育つと考えます。

したがって、研究部では、「考えること」と「表現すること」が関連した活動を通して、子ども白らが目的意識をもって主体的に取り組む授業を目指します。

活動を指しています。このことは、研究部で考えている「考えること」と「表現すること」が関連した活動であることといえます。機械的に計算の手順をあてはめて答えを出す活動などは算数的活動とは言えません。学年・領域・単元・毎時間の学習の中で、どのような算数的活動を位置付けることができるのかを今一度見直していきたいと考えます。

また、子どもが目的意識をもって主体的に取り組むことを大切に、自ら考え、表現することによって、学習の目標に迫っていく学習こそが目指す問題解決の学習なのです。



4. 算数的活動

今回の学習指導要領の改訂では、算数科の目標のはじめに「算数的活動を通して」という文が見られます。算数的活動はこれまでも目標に位置付けられていましたが、より具体的に示されています。各学年で示されている算数的活動は「数える活動・意味や仕方を表す活動・比べる活動・図や式に表わし、説明する活動・見つける活動・測定する活動・書いたり作ったりする活動・分類整理する活動」と具体的にになりました。

上記の算数的活動は、具体物などを操作する活動だけでなく、基礎的・基本的な知識・技能を、その意味や根拠から考えたり、それを発展的・応用的に考えたりする

Ⅲ. 研究を深めるにあたって

今年度は次ページのような年間計画で研究を進めていきます。この研究主題・副主題を受けて各地区・支部が研究を進め、各地区・支部の実践・検証を本部研究部が集約し、北海道の算数教育の実状と成果・課題を明確にしていきたいと考えています。

平成21年度研究部 研究推進計画

全道常任幹事会

研究内容・推進計画を提案

各ブロック・支部との研究内容の交流

各ブロック・支部において
「思考力・表現力を育む問題解決学習」を目標とし、
算数的活動に焦点をあてた授業実践を進める

第64回空知・岩見沢大会

学年を柱にした授業研究

- 1 学年部会 (岩見沢 東小)
- 2 学年部会 (岩見沢 東小)
- 3 学年部会 (岩見沢 東小)
- 4 学年部会 (岩見沢 東小)
- 5 学年部会 (岩見沢 東小)
- 6 学年部会① (岩見沢 東小)
- 6 学年部会② (岩見沢 幌向小)
- 複式3・4年部会 (岩見沢 メープル小)

指導案検討
特設公開授業
授業分科会
を通して研究を推進する。

領域から見た実践研究

- ①数と計算Ⅰ部会
- ②数と計算Ⅱ部会
- ③量と測定部会
- ④図形部会
- ⑤数量関係部会
- ⑥学び方部会

全道から募集する
6つの領域・課題分科会における研究発表(各部会3発表)
を通して研究を推進する。

講習会による研修

今日の算数教育に関する課題
学習指導要領・教育課程に関する課題
授業実践に関する課題

各ブロック・支部との研究交流
研修会・講習会の共催

平成21年度北数教小学校部会の
研究成果及び課題

HP・会報等を通じて

■HPを活用した
研究内容の広報
大会案内

■大会1次案内

■大会2次案内

■会報94号による広報
(9月)

■第64回大会要項
■第64回研究紀要
・指導案
・研究発表

■HPを活用した
研究内容の広報
大会報告

■会報95号による広報

■大会記録集
■研究集録CD

IV. 具体的取り組み

1. 基調発表

研究部では、これまでの研究実践をふまえ、新しい学習指導要領の基本方針を確実に学ぶ研究とするために、基調発表の内容を考えました。

6月初旬に会員の皆様へお届けした各領域の基調発表は、現状の分析として、日数教大会の分析とこれまでの北数教大会の傾向を示すとともに、副主題にある思考力と表現力と算数的活動についての内容を付加しました。10月の空知・岩見沢大会では、全道各地からの研究発表をもとに、分科会の研究課題として追究していきたいと考えております。

2. 大会事前授業検討会

今年度は10月8・9日両日にわたり、岩見沢市内を会場として北数教第64回空知・岩見沢大会が行われます。小学校部会は岩見沢市立東小学校、岩見沢市立メープル小学校、岩見沢市立幌向小学校の3校の子どもたちと先生が公開授業を行います。6月に、空知地区と本部研究部が第1回の公開授業と授業検討会を行いました。以下に各学年の様子をお知らせいたします。

1学年 授業者 岩見沢 東小 中川 克彦 先生
公開授業「のこりはいくつ」

授業はPC画像でひき算の場面提示があり、子どもが意欲的に学習に臨んでいました。先生は、積み木での活動を大切に、一人一人を大切に授業を進めていました。検討会では、大会に向けて1年生の学びのルール作りを確認しました。(本部研究部 島貫)

2学年 授業者 岩見沢 東小 関口 清吾 先生
公開授業「長さ(1)」

授業は子どもが教科書の縦と横の長さの見積もりをして測定した後、教室内の物の長さを測定しました。検討会では、「かかわり合い」を大切に子ども同士の交流の在り方と教師のまとめ方について学び合いました。(本部研究部 高田)

3学年 授業者 岩見沢 東小 沢 奉宏 先生
公開授業「たし算とひき算」

授業は□+□のマスキングから本時の課題を提示し、一人ひとりが既習を用いて、問題を解決していきした。検討会では、問題解決的な学習の在り方やノート指導について交流することができました。

(本部研究部 高橋)

4学年 授業者 岩見沢 東小 伊丹 奈央 先生
公開授業「わり算の筆算(1)」

授業は $60 \div 20$ の計算の仕方について考えた後、 $140 \div 40$ の計算の余りの処理の仕方考えた授業でした。検討会では、個の解決のとき、つまづいた子への支援の仕方をどうすべきかについて、交流を深めました。

(本部研究部 村上)

3学年・4学年複式

授業者 岩見沢 メープル小 辻脇 志郎 先生
公開授業「わり算」

授業ではそれぞれの授業のねらいをしっかりと定め、それに向かって意欲的に取り組む子どもと教師の的確な援助の姿が見られました。検討会では、わり算の筆算の裏にある理由を考えさせる場面の在り方について交流することができました。(本部研究部 末原)

5学年 授業者 岩見沢 東小 有村 宏紀 先生
公開授業「小数の大きさとたし算ひき算」

授業は高学年らしく、子どもが意欲的に課題に取り組む姿勢がみられ、授業にそったつぶやきや発言が多くありました。検討会では子どもの反応を活かす板書や教師のかかわりについて学び合うことができ、有意義な会となりました。(本部研究部 黒澤)

6学年 授業者 岩見沢 東小 渥美 マリ 先生
公開授業「立体」

授業は直方体と立方体と円柱の仲間に分ける算数的活動を通して、立体についての理解を深めることができた。検討会では、子ども達が解決したいという「問い」の持たせ方と授業の流れについて交流しました。

(本部研究部 宮崎)

6学年 授業者 岩見沢 幌向小 櫻田 和也 先生
公開授業「立体」

授業では子どもがよく発表し、子ども同士の交流も活発に行われており、先生の日常の子どもを育てる素晴らしい営みが見られた。検討会では、単元を通しての教材化の工夫や大会授業についての交流を行った。

(本部研究部 森井)

夏季休業中にも授業検討会を行い、内容を深めてきました。授業概略として指導案を次号でお知らせします。

地区紹介

平成21年度の北海道算数数学教育会小学校部会は、5ブロック15地区体制で研究を進めます。

各地区の組織体制づくりを進めている地区委員の方々をご紹介します。

	地区	氏名	職	学校名
1 ブ ロ ッ ク	石狩	山田 昌彦	教諭	江別市立上江別小学校
	後志	横山 悟	校長	岩内町立岩内東小学校
	小樽	倉谷 健次	校長	小樽市立量徳小学校
2 ブ ロ ッ ク	上川	長田 一芳	校長	美瑛町立美沢小学校
	旭川	三浦 雅明	校長	旭川市立青雲小学校
	宗谷	赤川 雅則	校長	枝幸町立岡島小学校
	留萌	前田 雄	教頭	留萌市立留萌小学校
3 ブ ロ ッ ク	函館	秋元 順一	校長	函館市立昭和小学校
	胆振	森定 久	校長	白老町立社台小学校
	空知	渡邊 強	校長	岩見沢市立幌向小学校
4 ブ ロ ッ ク	釧路	関川 明男	校長	釧路市立鶴野小学校
	根室	原中 隆志	教頭	中標津町立丸山小学校
	十勝	原見 寿史	教頭	鹿追町立鹿追小学校
	網走	鈴木 寿弘	校長	斜里町立朱円小学校
5 ブ ロ ッ ク	札幌	田中 隆	校長	札幌市立貞駒内小学校

<敬称略>

※渡島・檜山・苫小牧・室蘭・日高は、3ブロックに所属します。

※帯広は、4ブロックに所属します。

授業づくりの活力となるように…

後志地区

1. はじめに

後志地区は、「後志算数数学教育を語る会」と称して、【算数好きの子どもたちを育てていこう】を合言葉に、活動しています。「語る会」の会員数は小中学校合わせて40名程度です。会員の平均年齢が少しずつあがり、若い力と風を「会」の中に吹かせたいと、学習会では会員以外にも広く声をかけているところです。

今年度の夏季学習会では30名中20名ほどの会員以外の若い先生方が参加してくれました。実践を通した話し合いや講演を中心としながら、授業づくりへの活力が得られるよう活動しています。

2. 活動の概要

(1) 基本方針と主な活動

- 算数・数学指導を通して、管内の子どもたちの「生きる力」を育む。
→学習会・交流会・講演会の開催
- 組織の活性化、新規会員を増やすため、後志全域・小樽市にも広報活動を広げていく。
→「語る会」会報の発行
- 共同研究として授業実践を中心に進め、実践力を高める。
→学習会・交流会・研究大会の開催

3. 研究の概要

(1) 研究主題

『生きる力を育む算数・数学教育』
～かかわりを深め、算数を学ぶ楽しさやよさを実感する問題解決学習の創造～

(2) 研究の視点

- ①かかわりを生かし、考えを深めていく学習展開
 - かかわりを生かし、自ら考えを深めていく学習展開の在り方について実践を重ねる。
 - 追究意欲の起点となる「問い」が生まれる問題提示の工夫を図る。 など
- ②算数・数学的な楽しさを実感できる単元構成
 - 基礎・基本を明確にし、児童の学習意欲を高める魅力のある問題場面を設定していく。
 - 学ぶ楽しさを実感できる算数的活動を単元構成に取り入れる。 など
- ③評価規準を活用した指導と評価の一体化の工夫
 - 評価を生かし、効果的な教師のかかわりの在り方を構築していく。 など

4. 終わりに

事務局も新体制となりましたので、新たな活動を作り上げていくことはもちろんのこと、これからの算数数学教育で求められているものを見極めながら、会員が互いに磨き合っていく「会」となるよう努めています。

(文責 倶知安町立西小学校 明村 秀之)

留萌地区スタイル

留 萌 地 区

旭川・上川地区活動報告

旭川・上川地区

1. 支部の概要

今年度の当支部は12名（管理職8名、教諭4名）の会員構成となっています。留萌管内には「留萌地方算数数学教育研究会」（※以下、「留数研」と略）という研究団体（今年度会員数63名）があり、今年度の留萌支部の会員は全員「留数研」に所属しています。

研究団体としては、北数教留萌支部と留数研は異なる組織ではありますが、算数数学の研究推進という目的が同じであること、これまでの支部会員のほとんどが留数研に所属していたこと、留数研事務局が支部の連絡調整担当の役割を担ってきたことから、大きな支障なく共に活動を進め、その成果を共有してきています。

以下にご紹介する内容は厳密には「留数研」についてのもではありませんが、上述したような実情からご理解いただけたらと思います。

2. 研究内容及び活動内容

留萌地方算数数学教育研究会では、今年度、活動内容の一部の見直しを図りました。

まず、研究主題を「自ら考え、共に学び合う児童生徒の育成～基礎・基本の定着と問題解決力の向上を図る授業の改善」とし、

- ① 基礎・基本を明確にした教材化の工夫
- ② 問題解決的な学習展開の工夫

の2つの視点から実践的研究を進めています。

当管内は南北に細長く広がっているため、今年度から

- ① 北部・南部の2ブロックに分け、それぞれのブロックで授業公開・研究協議を行うことを主な内容とする「実践交流会」の開催。
- ② 北部・南部の輪番で、授業公開及び研究協議、主題に関わる研究発表及び研究協議を主な内容とする研究大会の隔年開催。
- ③ 留萌市、羽幌町の輪番で教育講演会、管内を2ブロックに分けて輪番で主題に関わる研究発表及び研究協議を主な内容とする研究大会の隔年開催。

という方法を通じて実践的研究を進め、年度末にはその年度の研究内容を収めた研究集録を発行し、全会員に配布しています。

3. 平成21年度の取組

昨年度は4年次研究の2年次として、幌延町の小・中学校2校を授業会場とし、研究会を開催しました。研究協議では、昨年度の成果を踏まえ、視点②の検証授業とし、活発な意見交流が図られ、盛会の内に今後の研究の道筋を見出すなど大きな成果をあげることができました。

今年度は、「教育講演会、主題に関わる研究発表及び研究協議」を主な内容とする研究大会を開催する年度です。10月30日に留萌市の留萌中央公民館を会場に「第38回 研究大会」を開催する予定です。

（文責 羽幌町立羽幌小学校 新井 真）

1. はじめに

本地区の北数教会員は、現在25名です。その多くが旭川市教育研究会算数数学部（以後；市教研）に属していますので、ここでは、市教研の活動を紹介いたします。

2. 平成20年度の主な活動

- (1) 旭川市教育研究大会
日時 平成20年10月21日(火)
場所 旭川市立東五条小学校・聖園中学校
内容 午前…授業研究（小・中同時開催）
午後…教育講演会
- (2) 総括研究大会
日時 平成21年2月9日(月)
場所 旭川市立向陵小学校・東鷹栖中学校
内容 午前…小学校授業研究
午後…中学校授業研究
- (3) 上川管内教育研究会開催の研究大会への参加
- (4) 第63回北海道算数数学教育研究大会への参加

3. 平成21年度の活動

研究主題を「一人一人の学ぶ力を高める算数数学教育の実践的研究」とし、小学校部会・中学校部会それぞれの研究部を中心に理論づくり・授業づくりを行っています。つくり上げたものの発表と交流の場を今年度も2回設けています。

- (1) 夏季研修会…8月11日(火)
内容 旭川市教育研究大会の指導案検討
- (2) 旭川市教育研究大会
日時 平成21年10月20日(火)
場所 旭川市立神居小学校・忠和中学校
内容 午前…授業研究（小・中同時開始）
午後…教育講演会
- (3) 第64回北海道算数数学教育研究大会への参加
- (4) 冬季研修会…1月12日(火)
内容 総括研究大会の指導案検討
- (5) 総括研究大会
日時 平成22年2月上旬（予定）
場所 旭川市内小学校・中学校（未定）
内容 午前…小学校授業研究
午後…中学校授業研究
- (6) 算数数学部広報誌・研究集録の発行
- (7) 上川管内教育研究会開催の研究大会への参加

4. おわりに

平成23年度の北数教研究大会上川旭川大会に向けて、今年度より本格的に授業構築が始まりました。今後の市教研の活動の多くは、2年後を見据えたものとなっていきます。

（文責 旭川市立旭川小学校 小玉 智生）

函館地区の活動状況

函館地区

1. 平成20年度の活動

函館市小学校算数教育研究会では、函館市の児童の実態や学習指導要領、北数教の研究などを踏まえ、平成17年度より次のような主題および視点のもとで研究を進めてきた。

確かな学力を育てる算数教育の創造
 ～子どもが生き生きと取り組む算数的活動を通して～
 視点1 個に応じた学習指導の工夫
 視点2 数学的な考え方を育てる学習活動の工夫

昨年度は研究主題の改訂も視野に入れ、学習会や授業研究を進めてきた。

<学習会>

新学習指導要領が目指すもの、他。

<授業研究>

第6学年 単元名「およその面積を求めよう」

函館市立深堀小学校 保坂 大樹教諭

- ・ 日常で出会うような求積場面を取り上げ、対象の形や測定値を大まかにとらえることで既習の求積方法を活用する場面を取り上げて授業研究をした。ねらいの吟味や学習活動と教材の工夫をしていく過程で新たな発見のある授業研究となった。

<研究発表>

北数教札幌大会、日数教福島大会

2. 平成21年度の活動

今年度はこれまでの研究をベースに、新学習指導要領で重視されている今日的課題への取り組みを目指し、新たな研究主題を設定して研究を進めている。

確かな学力をはぐくむ算数的活動の在り方
 ～数学的に考え、表現する能力を育てる授業の工夫～
 視点1 数学的に考える力を育てる学習課題の工夫
 視点2 数学的に表現する力を育てる学習活動の工夫

今年度は2本の授業研究を予定している。これらを通して新たな主題にむけての研究を具体化し、今後の研究内容をより明確なものにしていく年としたい。

<4～7月>

- ・ 研究主題の検討
- ・ 研究内容の具体化（視点の吟味）
- ・ 夏季研修会

<8～12月>

- ・ 授業づくり（ブロック研究）
- ・ 北数教大会への参加
- ・ 授業研究会

<1～3月>

- ・ 研究のまとめ

（文責 函館市立亀田小学校 佐藤 健）

会員一人一人の指導力向上を目指して

網走地区

1. はじめに

網走管内算数数学教育研究会は現在50名の会員で活動しています。当管内は大変広く、会員も一円に散らばっているため、一堂に会することが容易ではありません。しかし、全道レポートを検討する夏の集いと冬の授業交流会の年2回、会員が集まって授業について熱く語っています。

2. 平成20年度の主な活動から

(1) 第63回北海道算数数学教育研究大会への参加

(2) 宿泊研修交流会「算数数学教育－夏の集い－」

① 日 時：平成20年8月23・24日

② 場 所：常呂少年自然の家

③ 内 容

- 北海道算数数学教育研究大会レポートの検討
- 日常の授業実践レポートの交流
- オホーツクの幸を囲んでの懇親会

(3) 授業交流会・総会

① 日 時：平成21年1月23・24日

② 場 所：北見市立温根湯小学校、温根湯中学校

○ 研究授業

- ・ 小学校2年「九九のひょう」3年「重さ」
- ・ 中学校1年「図形」

○ 講演「算数的活動・数学的活動の

充実に向けて」

講師 北教大旭川校 教授 相馬一彦氏

(4) 各研究会への後援、助言、参加協力

① 網走地方教育研修センター講座 講師派遣

② 美幌町学校教育振興協議会 講師派遣

③ 美幌町立旭小学校公開研 助言者派遣

④ 全道へき地複式教育研究大会 助言者派遣

⑤ 小中学校ステップアッププロジェクトへの協力

(5) 算数・数学だよりの発行

3. 平成21年度の活動

(1) 第64回北海道算数数学教育研究大会への参加

(2) 宿泊研修交流会「算数数学教育－夏の集い－」

① 日 時：平成21年8月22・23日

② 場 所：常呂少年自然の家

(3) 授業交流会・総会

① 日 時：平成22年1月22・23日

② 講演予定（北教大旭川校 教授 相馬一彦氏）

4. おわりに

当管内では、毎年全道研究大会のレポート発表者を送り出し、全道の算数数学教育の状況について会員で交流を図っています。また、冬に授業交流会を実施し一人でも多くの子が算数・数学が好きになるように指導方法を研究しています。

（文責 斜里町立朱円小学校 鈴木 寿弘）

十勝・帯広地区の算数教育の充実へ向けて

十勝地区

1. はじめに

昨年度は、数名の新会員を迎え、授業研究会も若手に授業提供をしてもらいました。若い新たな風をサークル内に吹き込むことで、ますますの活性化を図っていききたいと考えています。

2. 平成20年度の活動内容

- (1) 管内全小中学校への案内によるサークル授業研を年2回開催しました。
- (2) 日数教大会福島大会および北数教大会札幌大会においてそれぞれ十勝の実践提言をし、「手がかり」「転による深化」の考え方については、全国・全道からも注目を浴びています。
- (3) 『秋山仁先生と語る会』が実現できました。100名を超える参加者は、サークル規模の会としては稀に見る程の大盛会でした。
- (4) 十勝管内サークル合同研では、事前の指導案検討と当日の授業参観・研究協議を行い、研修講座ではメディアを活用した授業づくりについて演習をしました。
- (5) 12月以降、十勝の算数における学力向上をめざした『十勝教師算数塾』が、次のように各方面で開催されました。

- ◇西部方面 12月18日 授業研と講演会
- ◇南部方面 2月19日 授業研と研究協議
- ◇東北部方面 2月20日 授業研と研究協議
- ◇東部方面 2月23日 授業研と講演会

3. 平成21年度の活動計画

- (1) 年3回程度の授業研究会の開催
- (2) 『十勝教算数塾』の継続
- (3) 管内の算数実践校への助言・授業提供
- (4) 北数教岩見沢大会への派遣参加

4. おわりに

本サークルは昨年度、十勝管内教育実践活動表彰を受けました。これまで積み重ねてきた管内へ発信する取組などが評価されたわけです。今後も、十勝教育の学力向上に向けた取組の一翼を担うことも私たち研究会の大きな使命であるとと考えています。

(文責 鹿追町立鹿追小学校 原見 寿史)

今年度の研究の方向

石狩地区

今年度も石教研算数部会の研究を紹介し、活動報告と致します。

1. 算数部会の現状と研究の方向

平成18年度より3年間、研究主題を「自分の考えをもち、伝え合う子どもの育成をめざして～みんながわかる授業づくり～」と設定し、「自分の考えをもてる学習過程」と「自分の考えをわかりやすく表現することの重視」に視点をおいて、研究を進めてきました。

その中で、既習事項を生かした学習過程の構築や自力解決を促す指導内容の工夫、小集団での伝え合う場面の設定など幅広い取り組みで成果を上げることができました。

しかし、表現力の向上や表現した後の収束のありかたなど、新たな課題も生まれました。

今年度は、第21期(2006～2009年度)研究の最後の年になります。研究主題のさらなる深化を図るとともに過去3年間の成果や課題をまとめ、次期研究の方向性を見いだすことを目標にしたいと考えています。

これまで同様、各市町村サークルとの共同研究を基盤に、研究主題・研究内容が部会員に理解され実践されるように課題の焦点化を図ります。

また、管内集会(専門部会二次集会)での算数部会員の有意義な実践交流を図るため運営計画と内容の見直し、効果的な部会情報の発行、実技研の実施など、研究計画に設定した内容の推進に向け努力していきます。

○ 研究内容

(1) 自分の考えをもてる学習過程

- ・基礎的、基本的内容の充実
- ・問題の工夫、教材の工夫
- ・多様な考えを引き出す活動

(2) 自分の考えをわかりやすく表現することの重視

- ・表現方法の工夫
- ・表現力の育成
- ・考えを伝え合う集団づくり
- ・思考力を高める評価

2. 平成21年度部会運営、研究の進め方

- ・研究領域全領域とする
- ・推進委員会や部会情報の活用で各市町村との連携を密にしなが、研究の視点、内容の具現化を明確にし、日常の実践を通して、課題解明に努める。
- ・新学習指導要領に向けた教育課程の編成。

(文責 江別市立上江別小学校 山田 昌彦)

平成21年度 北海道算数数学教育会役員・事務局一覧

事務局 札幌市立澄川小学校 田中 秀典
〒005-0005 札幌市南区澄川5条4丁目1-1
TEL (011) 821-1141
FAX (011) 821-1142

副会長 勝山 登 札幌市立上野幌東小学校長
部長 松村 憲治 札幌市立山鼻小学校長
副部長 田中 隆 札幌市立真駒内小学校長
佐々木雅史 札幌市立屯田小学校長
横山 悟 岩内町立岩内東小学校長
三浦 雅明 旭川市立青雲小学校長
渡邊 強 岩見沢市立幌向小学校長
関川 明男 釧路市立鶴野小学校長
監事 本間 道子 札幌市立琴似小学校長

研究部 中村 義則 札幌市立あいの里西小学校
森井 厚友 札幌市立北都小学校
島貫 静 札幌市立東苗穂小学校
高田 洋史 札幌市立藻岩小学校
村上 友宏 札幌市立手稲中央小学校
末原 久史 札幌市立北光小学校
高橋 健一 教育大学附属札幌小学校
黒澤 智美 札幌市立白楊小学校
宮崎 英子 札幌市立日新小学校

事務局長 田中 秀典 札幌市立澄川小学校長
事務局次長 筒井 義博 札幌市立羊丘小学校教頭
熊谷 敏夫 札幌市立石山小学校
藤田千恵子 札幌市立発寒東小学校
高橋 智 札幌市立東橋小学校
大桃 規之 札幌市立あやめ野小学校
村元 秀之 札幌市立東札幌小学校

庶務部 三浦 恵 札幌市立二条小学校
齋藤 俊博 札幌市立幌北小学校
酒巻 智 札幌市立屯田北小学校

会計部 庄司ひさ子 札幌市立真駒内小学校
岡田 美樹 札幌市立北都小学校
佐竹 浩樹 札幌市立あやめ野小学校

組織部 伊藤 淳一 札幌市立丘珠小学校
斎藤 弘樹 札幌市立新琴似北小学校
佐藤 誉倫 札幌市立上野幌小学校

統括本部事務局へ出向

統括事務局次長 荒井 隆弘 札幌市立栄東小学校
統括事務局員 佐々木 譲 札幌市立幌東小学校
松川 浩之 札幌市立和光小学校
舘 誠治 札幌市立稲穂小学校
宮野 正樹 札幌市立発寒東小学校

調査情報部 松村 倫宏 札幌市立北光小学校
小松 雅征 札幌市立山鼻小学校
星野 邦雄 札幌市立共栄小学校
西澤 裕行 札幌市立宮の森小学校

<敬称略>

会費納入のお願い

諸先生におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。日頃より、本会諸活動にご支援いただき、心より感謝申し上げます。

ご承知のとおり、本会は会員皆様方からの会費によって運営されております。この会報「さんすう」の印刷・発行も皆様からの会費で賄われております。

例年、多くの会員の方々に納入していただいておりますことに心よりお礼申し上げます。本年度も北海道算数数学教育会小学校部会の円滑な運営にご理解とご協力をお願い申し上げます。

◇平成21年度分会費 1,500円

◆昨年度未納の方は、昨年度分と合わせて3,000円を納入していただきます。

〒005-0012 札幌市南区真駒内上町4丁目7-1
札幌市立真駒内小学校 庄司 ひさ子
TEL (011) 581-1608